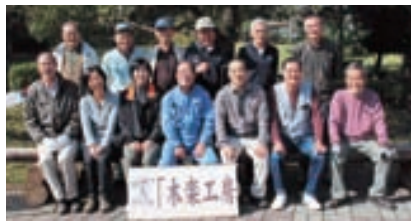




木工・補修・補強ボランティアグループ「木楽工房」

「木工」を「気楽」に楽しむために——。今回は、そんな願いを込め名付けられたつくばみらい市の木工・



きらく山公園内に製作した丸太ベンチ前にメンバーが勢揃い！

補修・補強ボランティアグループ「木楽工房」へお邪魔してきました。第2第4月曜の月2回活動されているという現場に伺ってまず驚かされたのは、その明るく和気あいあいとした楽しげなムード。18人のメンバー中、2人の女性が華を添えると言ったメンバー構成もさることながら「作業は楽しんで行くもの」という



女性メンバーも作業に従事

明確な目的が、冗談や明るい掛け声を飛び交わせ、作業現場を陽気な空気に変えている、そんな和やかな雰囲気

に包まれていました。

平成22年10月より発足したという活動は当初、木工教室という相互親睦を深める位置づけでしかなかったそうです。その後、活動拠点となっていた



個人宅に車椅子移動用木製スロープ工事



古タイヤを用いたタイヤベンチ

つくばみらい市のきらくやまふれあいの丘の数少ない木製ベンチの腐食が進み、満足に利用出来ない有様に一念発起。その修繕活動からスタートし、今ではきらくやまふれあいの丘に存在する木製ベンチのほとんどが木楽工房による修理や制作したもので占め

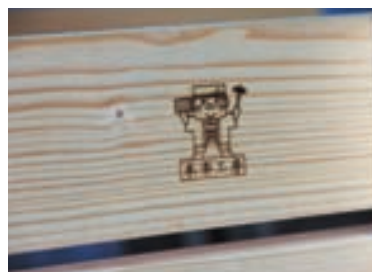
ています。そんな仕事ぶりが周囲に理解されるようになり、今では個人宅に車椅子移動用木製スロープ設置など、ボランティアでの75歳以上の独居老人宅や介護認定者宅の住宅の不具合箇所の補修や補強活動も活発化していくようになったのだそうです。

「人の為に何かをしたい。実はそんなこと考えてもいませんでした（笑）。仕事をリタイアした後、興味のある木工を気軽に始めたい。最初はそんな思い付きで始めただけなんです」と語るのは会長の田中芳雄さん。「定年になるとどうしても家にこもりがち。積極的に外に出て、好きなことを共に行う仲間意識や連帯感に生きがいを感じますね。しかも好きで始めた木工作業が多くの方に喜んでもらえる。こんな幸せなことないですよ」と屈託なく笑って話すのは公務員だった副会長の長塚さんとメーカー勤務だった庶務担当の中谷さんのお二人。そのような経緯を辿り、木工好きの親睦団体だった木楽工房は、現在では地域に欠かすことの出来ないボランティアサークルとして確固たる存在となっているようです。



左から長塚副会長、田中会長、中谷庶務担当として確固たる存在となっているようです。

今後の展開について田中会長は「幸いにも良い仲間巡り合い機会にも恵まれ、こうして活動も軌道に乗りつつあるのですが、やはり身の丈に合った活動が大事。今後の人生を見据え、常に自己啓発ということを忘れない



作品に焼印が刻印されます

ようにしたい」と語ってくれました。

気楽に楽しむ心意気を大切に、木楽工房はこれからも、活動が続けられて行くことでしょう。

